

主張

平和の新婦人 いま出番 空白地域に班結成!

高市政権に対抗する新婦人を!

奈良・梶原直梨つ娘班

班長の栗子昌代さんは職場で入会し、退職後は地元で班をつくりたいと思いつつもふんざりがつかず、10年が経過しました。「いつかが『いま』に変わったのは、同郷でイヤでも注目せざるを得なかった高市氏が首相になったこと。支持率が高いことに納得できず、落ち着かない気持ちにさせられていたとき、『高市政権に対抗するため、新婦人を大きく』の呼びかけがストンと胸に落ちました。「班がなければ、仲間を増やせないと思



2月の班会は『班活動の手引き』をみんなで読み合った。次回は会員宅にある窯でピザづくりです。

奈良・梶原直梨つ娘班
つた」と話します。毎月、スーパー前で戦争法反対の宣伝行動を一緒にしている女性たちに、「地域で新婦

人の班をつくりたいから力を貸してほしい」とLINEしたところ、「一緒に考えたり、勉強することならできたら…」と2人が入会。ほかの班に所属していた地元の会員とあわせ、50代から80代の4人で空白だった大淀町の地域に班をつくることになりました。第1回の班会を開いたのは、高市首相の自展をやりたくて出しました。栗子さんは「これまでよく顔をあわせてい

た。中部電力の浜岡原発では、再稼働に必要な審査でデータ改ざんが発覚するなど、原発推進のさまざまな実態があらわになっています。政府と東京電力は2051年までに福島第一原発の廃炉作業を完了する計画ですが、核燃料デブリの取り出しはすすまず、見通しは立っていません。福島では帰還困難区域が7市町村に残され、5万4000人が故郷に戻れず、避難指示が解除された地域でも暮らし

3・11から15年 原発ゼロの決断を

や生業の困難は続いています。政府は被災者への支援を打ち切り、除染の責任も放棄しようとしています。新婦人は、新潟や福井など原発をかかえる地域で長年国や自治体、電力会社への申し入れを続け、全国でも「再稼働反対」「原発ゼロ」と声を上げ、運動してきました。新婦人も参加する原発をなくす全国連絡会が呼びかける「住民本位のふくしま復興を! 原発ゼロと再エネ転換でいのちとくらしをまもる全国アクション」で宣伝や署名などにとりくみ、仲間も迎えていきたいと思います。

たけれど、「おしゃべりする機会がなかったことに気づかされた。平和の課題を手放さない」と話します。山形支部おひさま班

山形市北部に新しい班が誕生しました。メンバーは、支部直属の習字小組(サークル)の仲間たちと、地域に点在していた会員の8人です。

きっかけは昨年の体験会と市報で、3人の新しい仲間を迎えたことです。2月の支部大会の前に、長らく空白だった地域に班をつくることにしました。1回目の班会は小組例会の前に集まって、ファミリーストラン

「班の魅力は、習字とおしゃべりです」と話すのは、支部長の石山さん。「小組の先生の橋本さん(85)の存在も大きい」と。高齢者アパートで暮らす橋本さんを石山さんが例会の日に車で迎えに行きます。「先生は、とにかくみんなを褒めてくれる(笑)。」こうで

さずにゆるゆると地域に根を張って活動し、多くの女性を会員に迎えた。山形支部おひさま班

転勤・転居される会員・読者のみなさんへ
新婦人は全国に班があり、転居先にも仲間がいます。移動のときは班、または支部に連絡し、転籍・転紙の手続きをお願いします。

6 しあわせになるためのジェンダー教育



(本文とは関係ありません)

を育てることにもつながります。フェミニズムの知見に支えられたジェンダー教育は、子どもも大人も「しあわせになるための教育」だと思っています。ジェンダーについて学ぶと、社会の中にある規範が見えて、自分らしく生きる選択が少しずつ可能になります。自分と健全に向き合える人は、他者とも健全な無理のない関係を築くことができ、人生の大きなしあわせにつながります。この連載を書きながら、私は何度も「教育とは何か」を問い直してきました。完璧な学校も、万能な方法もありません。それでも、子どもたちが「ここにいていい」と感じられる教室は、確かにつく

ることができます。小さな問い直しや対話の積み重ねが、学校を少しずつ変えていくと信じています。ジェンダー教育は、誰もが自分らしく生きられる未来へ向かうための土台です。子どもも大人も、お互いの違いをおそれずに関わり合える社会へ。そんな希望を手渡していくことが、これからの教育にできることなのだと思います。

明確に据える学校は決して多くありません。社会が「役に立つ人材」を求めるほど、教育もそちらへ傾いていきます。

対話の技法やコミュニケーションの方法を学んでも、人権や歴史、ジェンダーや権力の構造を読み解き、不平等や差別の構造を見つめる視点がなければ、対話は形だけのものになってしまいます。学校や教師が政治と無縁でいられないのは、校則や評価、生徒指導など、日々の実践そのものに権力のあり方が含まれているからです。

だからこそ、教育にはフェミニズムの視点が必要です。フェミニズムは誰かを責めるための思想ではなく、人がより自由に、対等に生きるための視点です。ケアや脆さ、互いに頼り合うことの価値に光を当てることは、安心できる関係性

〈最終回〉

「ふつう」を問い直す

社会の縮図の学校で



ジェンダー教育実践家
星野俊樹

「子どもの尊厳はどこへ行ったのだろう。学校では今、技能や効率が優先され、今を生きる一人の人間であるはずの子どもの権利や声が置き去りにされる場面が少なくありません。

いま多くの学校が「ICTスキル」「コミュニケーション能力」「自立・自律」を教育目標に掲げ、人権や尊厳、多様性を教育の中心に